

1996年に提唱された

新しい聴覚障害

「ANSD」を

知っていますか？

「聞こえる」

けれど

「判別できない」

新しい聲の世界を

旅しよう。

もっと知りたい！

ポータルサイト



オープンチャット



知っていますか？

ANSD

「聞こえる」聴覚障害



ANSDだとわかったら

悲観する必要はありません！
近年、ANSDの治療・療育には
人工内耳が効果的
という研究があります。

早期発見・早期療育を
することで、
口話による社会生活も
できる可能性があります。

もしかして、と思ったら
まずはかかりつけの
小児科・耳鼻科に
相談してください。

ANSDの
患者数は、
とても少ないです。

是非、積極的な
情報交換を
しましょう！

ANSDの特徴

一見聞こえる反応

保護者が呼びかける声、サイレンの音。
みなさんが知っている聴覚障害は
「聞こえない・聞こえづらい」が一般的。
だから、こういう音に反応しない場合
聴覚に問題がある子はすぐわかる！
これが今までの常識。
ANSDの子どもは、「反応します」。
ただし、それは言葉として脳は判別していません。

新生児スクリーニングの穴

現在あらゆる自治体で推奨または義務化されて
いる「新生児スクリーニング」には種類があります。
鼓膜の反射を診る「OAE」、
さらに奥の脳幹の神経まで反応を診る「ABR」。
ANSDは、OAE方式の検査の場合、
「耳の機能は正常」と判断されます。
しかし、ABRでは反応しません。
新生児スクリーニングが正常だったから大丈夫！
ではないかもしれません。

言葉の発達の遅れ

ANSDは「聞こえる」けれど「判別できない」
だから、言葉が遅れます。
場合によっては、自閉症スペクトラムや
知的障害を疑われる場合も。
二歳ごろまでに明瞭な発音がない場合は
まずは聴覚検査を受けることを検討してください。
方式はABR方式を推奨します。